

○26番（近藤司）（登壇） 次に、地域公共交通の再編についてお尋ねいたします。

国において地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正され、地域公共交通の見直しを進めることが方針として示されたことから、本市の公共交通の課題解消に向け、令和6年3月に新居浜市地域公共交通計画が策定され、令和6年度から令和10年度までの5年間で実施することになっております。

そして現在、市民、交通事業者、行政などで構成する新居浜市地域公共交通活性化協議会においてバス路線の見直しについて協議されております。8月5日の都市基盤整備促進特別委員会において乗り継ぎなしで目的地まで行けることを優先して、4路線の再編案についての説明を受けました。

そして現在、令和8年10月の新路線運行開始に向け、バス事業者と便数、ダイヤなどの協議中とのことですが、4路線の再編に併せてバス路線の一部を廃止する可能性があるとの連絡があったとのことでした。

そこでお尋ねいたします。

人口減少などの影響による路線バス利用者の減少や深刻な運転手不足も加わったバス事業者の厳しい経営状況により、バス路線が一部廃止される可能性があるとのことですが、市としてどのような対応策を考えておられますか。

都市基盤整備促進特別委員会や一般質問の中でも、市内循環バスは市民も待ち望んでおり、試行運転などで状況を確認して検討を進めてほしいとの意見も出ております。廃止する路線で影響の出る地域への対応策を検討するとともに、令和8年10月の新路線運行開始に合わせて市内循環バスの試行運転を実施できるように、まず事業者と協議していただきたいのですが、いかがでしょうか。

次に、川西地区で実施しているデマンドタクシーの試行運転については、試行運転の期限が今年度まででしたが、来年度以降どのようにされるのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田経済部長。

○経済部長（藤田清純）（登壇） 地域公共交通の再編についてお答えいたします。

まず、バス路線の一部が廃止される場合の対応策についてでございます。

路線バスは、年間延べ29万人以上が利用している本市の基幹的な公共交通でありますことから、まずは現行の路線維持に向け、事業者と協議してまいります。

一部路線の廃止が避けられないと判断される場合においても、市民の皆様への影響が最小となるよう協議したいと考えております。

また、路線廃止により、バスの利用が困難となる方につきましては、デマンドタクシー制度において移動手段を補ってまいりたいと考えております。

次に、市内循環バスの試行運転についてでございます。

市内循環バスの導入につきましては、昨年度の新居浜市地域公共交通活性化協議会において協議を重ねてまいりました。その際、バス事業者からは、乗務員不足により、循環バスを運行するためには現行路線の運行を大幅に減らさなければならず、旅客の減少も懸念されるとの意見が

あり、利用者側からは、循環バスは乗換えが増えて不便であるとの意見が多く、導入を見送った経緯がございます。

今後におきましても、利用者のニーズと事業者の状況を適切に把握しながら、市内循環バスも含めた交通手段について、地域公共交通再編の協議において専門家や関係機関からの意見をいただき、地域公共交通の維持、改善に取り組んでまいります。

次に、川西地区デマンドタクシーについてでございます。

市といたしましては、来年度、本格運行として事業を継続したいと考えており、事業の実施主体であります新居浜市地域公共交通活性化協議会において協議を行っているところでございます。

○議長（田窪秀道） 近藤司議員。

○26番（近藤司）（登壇） 1点、市長に対して循環バスの運行に対しての意見を聞きたいと思えます。

バス路線の一部廃止により、市民の足に大きな影響が出てきます。市が掲げる健康長寿対策やフレイル対策にも影響が出てくると思います。循環バスを走らせるためには、バス事業者やデマンドタクシーを運行するタクシー会社との話合いが必要だと思います。資金援助も必要になると思いますが、必要な事業には市の補助もやむを得ないと思います。古川市長の循環バス運行に対する御所見をお伺いしたいと思います。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 近藤議員さんの御質問にお答えいたします。

循環バス運行に対する私の考えについてお答えいたします。

循環バスは、地域内の病院や商業施設など、皆さんの利用が多い拠点を周回ルートで運行できるため、路線が分かりやすく気軽に利用しやすい交通手段であると考えておりますが、導入していくためには、既存の路線バスなどに廃線、減便などの大きな代償が求められることが想定されることから、昨年12月の協議会の議論では見送るという判断となりました。

しかしながら、10年後、20年後の本市の公共交通を考えたとき、既存の公共交通機関を維持していくことについて不安な点は否めないと感じております。そのようなことから、いま一度、新居浜市の都市基盤や地域公共交通の将来像など、中長期的な視点でグランドデザインを描き直す必要があると私自身は考えております。

○26番（近藤司）（登壇） この循環バスの試行運転なんですけど、試行運転だけでも何コースかちょっと選んでやってみていただけたらと思います。次に進みます。